

さっぽろ大通ビアガーデンの会場では、飲酒運転防止を呼びかける看板の設置作業も行われた＝17日、札幌市中央区



注意喚起

主催者が強化

ビアガーデン ■ 野外ライブ



ビアガーデンなど夏恒例のイベントが道内で本格化するなか、各会場では飲酒運転対策を強化する動きが

広がっている。小樽市のひき逃げ事件を受け、急ぎよ追加策を講じた主催者も多い。飲酒運転防止の注意喚起が目立つが、会場に代行運転の受付窓口を設けるなど一歩踏み込んだ試みも見られる。

札幌市中央区の大通公園で18日に開幕する「さっぽろ大通ビアガーデン」の実行委は17日、出店する各ビ

ール会社との会合で、8月15日までの期間中、飲酒運転をしないよう呼びかける場内放送の実施を要請した。従来も看板などによる注意喚起は行われていたが、小樽の事件を受け急ぎよ追加の協力を求めたという。

岩見沢市で19、20日に開催される野外音楽イベント「ジョインアライヴ」は車の来場者が多数見込まれ、主催するマウントアライヴ(札幌)は小樽の事件後、会場内の飲食店前に飲酒運転防止を求める看板を設置することを決めた。

道内の代行業者14社が加盟する全国運転代行協会北海道支部は、千歳市のキリンビール北海道千歳工場で来月24日に行われるイベントに受付窓口を特設。車で来場後、飲酒した客が代行を予約できる態勢を整える。北海道支部では初の試

み。同工場から依頼があり、1万5千人を超す来場が見込まれることから一定の採算も取れると判断した。通常、代行業者は夕方から未明にかけて繁華街で営業している。ひき逃げ事件の発生したおたるドリームビーチなどの海水浴場に配車するケースもあるが、営業時間が日中になるため運転手の確保も困難で、普及していないのが現状だ。

ただ、同支部は「飲酒運転撲滅に貢献をしたい」として今後、海水浴場側からの打診があれば代行車の常駐も検討するという。

駐も検討するという。キリンビールの千歳工場や恵庭市のサッポロビール北海道工場、後志管内余市町のニッカウヰスキー北海道工場余市蒸留所などは近年、車で来場する客に、運転手であることを明示するシールを貼ったり、退場時に呼気検査をするなどの対策を強化している。